

SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	桜森 真太郎	学校名	千葉市立小学校
実施学年	5 年生	教 科	算数科
単元名	算数 割合 何倍になるかを考える・2段階の小数倍について考える		

《学びを深めたいポイント》

本学級の児童は、学力の個人差が見られるだけでなく、学習意欲にも大きな差がある。また、友達の発表を聞くと考えが広がると感じている反面、発表を苦手と感じている児童も多い。そこで、一人一台端末(本自治体ではギガタブと呼称している。以下ギガタブ)の共有ドライブを活用して自由進度学習で自分のペースで学ぶ楽しさを感じることができるようにする。また、反転学習を取り入れ協働的に学びを充実させることができるようにすることをねらいとしている。

《SKYMENU 活用のポイント》

普段の学習の中で SKYMENU を使って学習を展開することが多く、児童も操作に慣れている。本学級では、自由進度学習を 4 月から取り入れ進めてきた。その中で、発表ノートによる共有を行い、個別最適、協働的な学びにつながるように行ってきました。また、6 月頃より反転学習を取り入れ、事前学習動画(担任が作成)を見て、ある程度内容を理解して翌日の学習に繋げている。動画の内容については、現在も試行錯誤している。

本展開では、発表ノートを使う際にグループワークを児童が主体的に活用しようとすることをねらいとしている。

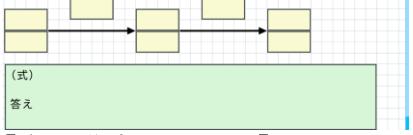
グループワークを活用する際に教師が中心になって活用する場面が多かった。しかし、自由進度学習を取り入れた学習形態では、児童それぞれ、学びの形態が違ってくる。一人でモクモク取り組む子、児童同士でグループを作る子、気づきメモのヒントを活用する子、担任と学ぶ子とそれぞれ自分に合う学び方で学習を進めている。特に児童同士でグループを作っている児童は、グループワークを活用することが多い。自由にグループワークを利用させると混乱することが考えられた。

そこで、1~20までの数字カードを並べ、そのカードを児童が選びそのグループに入るようにならして、混乱することなく、グループワークを活用して、協働的な学びにつながったと考えられる。

普段の学習の中で SKYMENU の「発表ノート・グループワーク」「気づきメモ」を活用しながら取り組む中でより良い活用を模索しながら今後も取り組んでいきたい。

《実践内容》

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
事前学習	0 反転学習で学習のめあて、動画を見てくる。 課題1 個人のめあてを書く。 課題2 事前学習動画を見る。		
導入	1 本時の課題を確認する。 ・事前学習動画を見てきたことを確認する。 ・問題場面と問題を確認する。		
展開	2 自由進度学習で学習を進める。 ・時間、活用するアプリ等を児童とともに確認する。 ①P74-1の問題を考える。 ②P75-2の問題を考える。 ③P75-3の問題を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・発表ノートによる、本時の課題を配布する。 ・発表ノートに自分で考え、入力したり、友達と共同編集で考え入力する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題文を読み、自分で関係図を作ることが苦手児童がいるため、全員に同じように枠を与えることで、児童が、自分で考え、整理できるようにしたいと考えた。

<p>何倍になるかを考えて 全体の何倍になっているかを考えて問題を解こう。</p> <p>1:全体の面積が$2000m^2$の公園があります。公園全体の面積の0.4倍が広場の面積、広場の面積の0.8倍がしばづの面積です。しばづの面積は何m^2ですか。</p>  <p>(式)</p> <p>答え</p> <p>【自由進度タイムとは】</p> <p>自分のめあて、学習のゴールを達成するために、どのように学ぶのか、どのような方法で学ぶのか、どのくらいの量を取り組むのか、自分で選択して自分のペースで学習を進める。</p> <p>【学び方を選択する】</p> <p>①先生窓口 担任に説明を受けながら学びます。</p> <p>②友達窓口 グループを作って学んだり、友達に聞きに言ったり教えに言ったりして学びます。</p> <p>③気づきメモ 学習の考え方を情報交換します。そのヒントをもとに学習を自分で進めます。</p> <p>④自力解決 自分のペースでどんどん学習を進めます。</p>	<p>・発表ノート、グループワークを児童が主体となって活用する。</p> 	<p>・友達とグループを作る児童たちが、自分たちで利用するグループの番号のカードを選び、グループが重ならないようにしている。</p> <p>・グループワークに入った児童には、共同編集で考えても良いことを伝えている。そうすることで、互いに考えを伝え合いながら学習を進め、協働的な学びにつながると考えている。</p>
--	--	--

まとめ	<p>3 全体で確認し、共通理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体での確認を教師を中心に行う。 ・学習の振り返りをする。 		
-----	---	--	--

《実践を振り返って》

児童は、自ら発表ノートを使うことで、自分のペースで学習を進める姿が見られるようになった。また、どのグループワークを活用するのか、カードを選択させたことで、グループの割り振りを担任が考えることもなく、児童が自らグループを作り、進んで話し合いながら学習を進めることができるようになった。

4月より自由進度学習、6月より反転学習を取り入れながら取り組んできた。自由進度学習、反転学習を行うことで個別最適な学びにつながってきたと考えられる。自由進度学習を行うことで、児童は自分のペースで学習を行うことができる。様々な学び方の形から自分に合う学び方を考えながら取り組んでいる。その学びが、自分を高める学びだったかどうかを振り返ることで、自分に合う学び方を児童は模索しながら学習している。

また、SKYMENU を活用することで協働的な学びにつなげることができた。発表ノートのグループワークを児童が自主的に活用することで自分たちで学びを進めている。学力が低位な児童にとって、今回の取り組みは効果的な様子が見られた。わからないことを友達に聞きながら問題を解決しようとする姿が見られるようになった。互いに教え合うことで、苦手な児童は少しずつ理解し、得意な子は教えることで理解を更に深めることができていると考えられる。

算数だけでなく、国語、社会、理科でも同じように実践を行っている。

これまでに毎時間、学習を通して自分にどのような高まりがあったかを振り返るようにしている。その積み重ねを通して、自分の学びを高めるためにはどのように学び方を選ぶよいのか、学び方を選択するように学び方を選択する観点を示すことで、児童一人一人がより自主的に学びに取り組むことが考えられる。

自由進度学習、反転学習もまだまだ修正することも多いので、今後も児童の学びを高めるために試行錯誤しながら、新しい授業スタイルを児童とともに作っていきたい。